
近くでアクビをすると、三秒後には臭いが果てしなく…

サダコレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

近くでアクビをすると、三秒後には臭いが果てしなく：

【Nコード】

N0742I

【作者名】

サダコレ

【あらすじ】

前田忠明って知ってる？特ダネみんないっ！！

(前書き)

久しぶりに書きます。最近プライベートが忙しくてハグキが…

みなさんの周りには口が臭い人はいるだろうか？

煙草を吸っている人、虫歯の人、緊張で胃が腐っている人、そして、口紅を塗っている人。

これはまだ小学生にもなっていない、ある孤独な少年が体験した実話である…！

あれは僕が…

少年が五歳の頃だったか…。

よくおばあちゃんの膝の上で絵本を読んでもらっていた時の話。

鼻孔を針の先でつつかれたような時があった。

（なんだろう？）

「おばあちゃん今何かした？」

「なにもしてないよ〜。」

なにもしていない。それなのに鼻孔に雷が落ちる事があってたまるのだろうか？

答えはnoである。

「おばあちゃん口臭くない？」

少年は子供が故に単刀直入にそう切り出す。
するととんでもない言葉が返ってきた。

「おばあちゃんは口紅塗ってるからね！それで臭いんだよ。」

「そうなんだ！？口紅って臭いんだね！」

今思えばおかしい話である。

だが母親に聞いても同じ言葉が返ってきたのだ。

だが少し不思議に思った僕：少年は、口紅を陰で匂ってみた。

（臭くないじゃんっ！！）

そう、おばあちゃんのハグキは臭っていたのだ。

ダイオキシ…。

少年は嘘をつかれていた。

少年の心は深く傷つき、鼻孔はズタズタになっていた。

ハグキ+おばあちゃん=悪魔の手招き

この学者が千年たっても辿り着けないであろう方程式を、少年は五歳にして解いていたのだ！この恨みをはらすべく、あれから20数年経った今。

その少年はこの小説を書いている。

「おばあちゃんネタ多くない！！？」

そんな意見なんぞしらん。

鼻孔を：

俺の鼻孔を返しておくれ！！

おばあちゃん、また近いうちに遊びに行く事があるかもしれません。
その時は笑顔で会えたらいいなあ。

しかし前田忠明に似てるよな〜

(後書き)

こんな僕でもとあるチームの代表である…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0742i/>

近くでアクビをすると、三秒後には臭いが果てしなく…

2010年12月22日02時22分発行